



平成 20 年 7 月 31 日

各 位

会社名 出光興産株式会社
代表者名 代表取締役社長 天坊昭彦
(コード番号: 5019 東証第 1 部)
問合せ先 IR・広報室長 鳥山 公
(TEL : 03 - 3213 - 9307)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等をふまえ、平成 20 年 5 月 2 日に公表しました平成 21 年 3 月期 (平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日) の業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 3 月期の連結業績予想数値の修正

(1) 第 2 四半期連結累計期間 (平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 9 月 30 日)

(単位 : 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想 (A)	1,970,000	47,500	45,000	16,000
今回修正予想 (B)	2,380,000	46,500	43,500	8,500
増減額 (B - A)	+ 410,000	1,000	1,500	7,500
増減率 (%)	+ 20.8	2.1	3.3	46.9
前期実績 (平成 20 年 3 月期中間)	1,697,975	36,159	42,134	13,779

(2) 通期 (平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日)

(単位 : 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	4,150,000	96,000	88,000	31,000
今回修正予想 (B)	5,090,000	107,500	100,000	31,000
増減額 (B - A)	+ 940,000	+ 11,500	+ 12,000	-
増減率 (%)	+ 22.7	+ 12.0	+ 13.6	-
前期実績 (平成 20 年 3 月期)	3,864,263	55,891	60,695	4,837

2. 平成 21 年 3 月期の個別業績予想数値の修正

(1) 第 2 四半期累計期間(平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 9 月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想(A)	1,850,000	22,500	18,000	8,000
今回修正予想(B)	2,260,000	6,000	6,500	1,000
増減額(B-A)	+410,000	16,500	11,500	7,000
増減率(%)	+22.2	73.3	63.9	87.5
前期実績(平成 20 年 3 月期中間)	1,560,290	12,135	18,123	7,501

(2) 通期(平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	3,820,000	39,000	28,000	12,000
今回修正予想(B)	4,760,000	28,000	22,000	10,000
増減額(B-A)	+940,000	11,000	6,000	2,000
増減率(%)	+24.6	28.2	21.4	16.7
前期実績(平成 20 年 3 月期)	3,593,193	2,004	17,323	6,923

3. 業績予想修正の理由

第 1 四半期においては、原油価格及び石油化学原料ナフサ価格が上昇し続けましたが、今後とも原材料価格の乱高下が予想されるため、現状の市場価格を前提条件とし、現時点における業績予想を算出しています。

(前提条件)

(単位:ドル/バレル、ドル/ト、円/ドル)

	前回予想	今回予想	増減
原油価格(ドバイ原油)	95.0	126.7	+31.7
ナフサ価格	910	1,102	+192
為替レート	100.0	105.1	+5.1

注) 今回 8-3 月前提:原油価格 130.0 ドル/バレル、ナフサ価格 1,150 ドル/ト、為替レート 105.0 円/ドル

(1) 連結

売上高は原油価格及び石油化学原料ナフサ価格の高騰により増収となる見通しです。

収益については、石油製品部門及び石油化学製品部門では原油価格及び石化原料ナフサ価格の高騰により、精製用燃料費等のコスト上昇や製品マージンが縮小するなど、厳しい状況が続くことが予想されますが、引き続き、コスト増加分の販売価格への反映や合理化による収益改善に取り組んでまいります。又、今年度より棚卸資産の評価期間を 1 年とする後入先出法から、四半期を評価期間とする後入先出法に変更したことにより、在庫の取崩し益が発生する見込みです。

(棚卸資産の評価期間変更により、営業利益で 50,800 百万円増加の見込みです。)

一方、資源価格の上昇により、石油開発部門及びその他部門における石炭事業では増益が見込まれ、在庫の取崩し益とあわせて、通期での営業利益及び経常利益は増益となる見通しです。

(2) 個別

上記のように、棚卸資産の評価期間変更による増益要因はありますが、原油価格及び石化原料価格の高騰により、製品マージンが縮小するなど、厳しい状況が続くことが予想されるため、減益となる見通しです。

4. 配当予想

平成 21 年 3 月期の間配当は 1 株当たり 75 円、期末配当金を含む年間配当金については、1 株あたり 150 円を予定しており、配当予定に変更はありません。

上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上